



2021年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年10月30日

上場会社名 株式会社タケエイ 上場取引所 東
 コード番号 2151 URL http://www.takeei.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 阿部 光男
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 (氏名) 上川 毅 (TEL) 03 (6361) 6871
 四半期報告書提出予定日 2020年11月13日 配当支払開始予定日 2020年12月3日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第2四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	19,678	10.9	1,750	22.0	1,657	31.9	856	25.9
2020年3月期第2四半期	17,744	16.4	1,434	94.8	1,256	156.9	680	—

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 978百万円(24.2%) 2020年3月期第2四半期 787百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	36.13	—
2020年3月期第2四半期	29.54	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第2四半期	87,796	33,448	36.6
2020年3月期	80,257	28,270	34.1

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 32,100百万円 2020年3月期 27,360百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	10.00	—	10.00	20.00
2021年3月期	—	15.00	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	15.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	41,000	8.7	3,700	12.2	3,450	14.0	1,940	9.9	76.05

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期2Q	28,616,300株	2020年3月期	24,552,000株
② 期末自己株式数	2021年3月期2Q	999,366株	2020年3月期	1,499,304株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期2Q	23,704,721株	2020年3月期2Q	23,030,105株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提になる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」)をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2020年4月1日から2020年9月30日まで)における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の流行による減速から持ち直しつつあるものの、そのペースは緩やかです。設備投資は、企業の業績悪化を受けて低調ですが、テレワーク関連など感染拡大防止のための投資が下支えをしております。

当社グループと関連の高い建設業界については、新設住宅着工戸数は、4、5月の大幅な減少以降も、前年同期比で低位に推移しています。新型コロナウイルス感染拡大は、主要顧客である大手建設会社の工事進捗状況及び業績に影響を与えたものの、足元の建設工事受注は民間工事、公共工事とも増加しつつありますが、本格的な回復には時間を要する見込みです。

このような状況下、当社グループ主力の廃棄物処理・リサイクル事業においては、新型コロナウイルス感染拡大が与えた影響が軽微に推移しており、グループ経営方針である廃棄物の再資源化を具体化するべく、グループ各社の中間処理工場及び最終処分場における受入体制を万全にし、収益機会を取りこぼすことなく取り組みを続けております。

再生可能エネルギー事業においては、市原グリーン電力株式会社が順調に稼働しており、東北地方3発電所も好調に推移しました。5月1日に株式会社横須賀バイオマスエナジーを吸収合併した株式会社タケエイグリーンリサイクルは、引き続き一体的な燃料材の受入・リサイクル体制強化に尽力しております。

なお、本吸収合併に伴い前期まで廃棄物処理・リサイクル事業に含めておりました株式会社タケエイグリーンリサイクルは、再生可能エネルギー事業に含めております。

環境エンジニアリング事業においては、新型コロナウイルス感染拡大収束の不透明感が続く経営環境にありますが、環境コンサルティング事業とともに、廃棄物処理・リサイクル事業、再生可能エネルギー事業との相乗効果を図る製品開発、研究技術開発にも積極的に取り組んでおります。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は19,678百万円(前年同四半期比10.9%増)、営業利益は1,750百万円(前年同四半期比22.0%増)、経常利益は1,657百万円(前年同四半期比31.9%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は856百万円(前年同四半期比25.9%増)となりました。

<廃棄物処理・リサイクル事業>

株式会社タケエイについては、中間処理工場における有価物の分選別強化など原価低減策が功を奏したことと、福島県内の複数箇所において参画している東日本大震災復興プロジェクトが引き続き好調に推移したことが、業績に寄与しました。また、東京オリンピック・パラリンピックによって中断される予定であった工事の一部も行われたことから、計画対比では影響は軽微にとどまりました。

なお、コロナ禍の影響が及ぶには時間差があり、受注環境の先行きには不透明感があります。

その他、廃石膏ボードの再資源化事業を行う株式会社ギプロは、解体案件の減少による搬入量の低調等により減収減益となりました。株式会社タケエイメタルは、スクラップ及び廃棄物扱いとなるシュレッダーダストの搬入量がともに減少し、減収減益となりました。イコールゼロ株式会社は、災害廃棄物処理支援事業が寄与し、増収増益となりました。2019年12月に第2管理型最終処分場を開業した株式会社北陸環境サービスは、順調に廃棄物の受入を行った結果、増収増益となりました。

<再生可能エネルギー事業>

第1四半期(6月30日みなし取得日)より連結範囲に含めた市原グリーン電力株式会社は、順調に稼働しております。株式会社津軽バイオマスエナジーは、燃料材の含水率が上昇し、減益となりました。株式会社花巻バイオマスエナジーは、定期修繕日程を下期に集約したことにより稼働日数の確保とコスト圧縮を図り、堅調に推移しています。株式会社大仙バイオマスエナジーは、燃料材の品質管理を徹底し、自社によるチップ破砕を開始したこと等によるコスト圧縮も寄与し、増収増益となりました。株式会社タケエイグリーンリサイクルは、横須賀バイオマス発電所における売電平均単価の向上、安定稼働等になお時間を要しており、営業利益確保には至りませんでした。また、電力販売4社は堅調に推移しました。

なお、株式会社田村バイオマスエナジーは、本年11月に発電所竣工式を行い、試運転及び使用前検査等を経て来春より営業運転を開始する予定です。

<環境エンジニアリング事業>

主力の環境部門において、工事進行基準を採用する複数の大型案件が順調に推移するとともに、外注部品を内製化することで製造工場における操業度の向上による収益性改善を図りました。また、コロナ禍により営業活動に制約を受けたものの、出張旅費、広告宣伝費等のきめ細かい経費削減に努め、増収増益となりました。

<環境コンサルティング事業>

環境保全株式会社は、アスベスト分析体制の強化等により増収増益となりました。株式会社アースアプレイザルは、コロナ禍等により営業活動に制約を受け、減収減益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における総資産は87,796百万円（前連結会計年度末比7,538百万円の増加、前連結会計年度末比9.4%増）となりました。

流動資産は22,304百万円（前連結会計年度末比454百万円の増加）となりました。これは主に、受取手形及び売掛金が651百万円、未収入金が533百万円減少しましたが、現金及び預金が1,408百万円増加したことによります。

固定資産は64,576百万円（前連結会計年度末比7,108百万円の増加）となりました。これは主に、機械装置及び運搬具が2,779百万円、のれんが3,168百万円、建設仮勘定が815百万円増加したことによります。機械装置及び運搬具、のれんの増加は、市原グリーン電力株式会社の子会社化等によるものであり、建設仮勘定の増加は、再生可能エネルギー事業における発電施設建設費用等の発生によるものです。

負債合計は54,348百万円（前連結会計年度末比2,361百万円の増加、前連結会計年度末比4.5%増）となりました。

流動負債は17,204百万円（前連結会計年度末比1,447百万円の増加）となりました。これは主に、短期借入金が1,600百万円増加したことによります。

固定負債は37,143百万円（前連結会計年度末比913百万円の増加）となりました。これは主に、株式会社田村バイオマセナジーの補助金受領により圧縮未決算特別勘定が379百万円、長期借入金が638百万円増加したことによります。

純資産は33,448百万円（前連結会計年度末比5,177百万円の増加、前連結会計年度末比18.3%増）となりました。これは主に、一般募集に伴う新株式の発行及び自己株式の処分と第三者割当に伴う新株式の発行により資本金が1,848百万円、資本剰余金が1,862百万円増加し、自己株式が441百万円減少（純資産の増加要因）したこと、親会社株主に帰属する四半期純利益（856百万円）と配当額（233百万円）の差引等により利益剰余金が589百万円増加したこと、市原グリーン電力株式会社他連結の範囲の変更等により非支配株主持分が437百万円増加したことによります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期連結業績予想については、前回発表時（2020年5月15日）に公表した連結業績予想から修正いたしました。

詳細につきましては、2020年10月30日公表の「第2四半期連結業績予想と実績値との差異並びに通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,492	12,900
受取手形及び売掛金	6,648	5,996
商品及び製品	80	60
仕掛品	1,163	1,273
原材料及び貯蔵品	1,059	1,160
未収入金	1,001	468
その他	414	447
貸倒引当金	△8	△2
流動資産合計	21,850	22,304
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	11,678	11,926
機械装置及び運搬具(純額)	11,310	14,089
最終処分場(純額)	3,793	3,650
土地	18,399	18,406
建設仮勘定	8,613	9,429
その他(純額)	395	398
有形固定資産合計	54,192	57,900
無形固定資産		
のれん	228	3,397
その他	547	516
無形固定資産合計	776	3,914
投資その他の資産		
投資有価証券	423	418
退職給付に係る資産	103	128
繰延税金資産	390	660
その他	1,858	1,831
貸倒引当金	△276	△277
投資その他の資産合計	2,499	2,761
固定資産合計	57,468	64,576
繰延資産	939	915
資産合計	80,257	87,796

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,794	1,553
短期借入金	2,962	4,562
1年内償還予定の社債	596	596
1年内返済予定の長期借入金	5,101	5,147
未払法人税等	807	818
機械式立体駐車場関連損失引当金	481	356
修繕引当金	76	94
災害損失引当金	120	2
その他	3,815	4,073
流動負債合計	15,757	17,204
固定負債		
社債	4,821	4,523
長期借入金	27,756	28,394
繰延税金負債	428	418
退職給付に係る負債	362	387
資産除去債務	794	810
役員株式給付引当金	96	107
修繕引当金	36	161
圧縮未決算特別勘定	1,780	2,160
その他	153	180
固定負債合計	36,229	37,143
負債合計	51,986	54,348
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,640	8,489
資本剰余金	7,186	9,049
利益剰余金	14,785	15,374
自己株式	△1,297	△856
株主資本合計	27,315	32,057
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	77	73
退職給付に係る調整累計額	△32	△30
その他の包括利益累計額合計	44	42
非支配株主持分	910	1,348
純資産合計	28,270	33,448
負債純資産合計	80,257	87,796

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
売上高	17,744	19,678
売上原価	13,737	15,063
売上総利益	4,006	4,614
販売費及び一般管理費	2,571	2,863
営業利益	1,434	1,750
営業外収益		
受取利息	0	0
受取賃貸料	7	9
持分法による投資利益	15	11
助成金収入	0	20
その他	47	43
営業外収益合計	71	84
営業外費用		
支払利息	83	92
社債利息	1	6
社債発行費	104	—
その他	60	79
営業外費用合計	249	178
経常利益	1,256	1,657
特別利益		
固定資産売却益	15	21
投資有価証券売却益	2	—
関係会社株式売却益	5	—
特別利益合計	23	21
特別損失		
固定資産売却損	6	0
関係会社株式売却損	14	—
特別損失合計	20	0
税金等調整前四半期純利益	1,259	1,678
法人税等	476	698
四半期純利益	783	980
非支配株主に帰属する四半期純利益	103	123
親会社株主に帰属する四半期純利益	680	856

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益	783	980
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3	△4
退職給付に係る調整額	0	2
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	—
その他の包括利益合計	4	△1
四半期包括利益	787	978
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	684	854
非支配株主に係る四半期包括利益	103	123

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,259	1,678
減価償却費	1,362	1,899
のれん償却額	24	106
機械式立体駐車場関連損失引当金の増減額(△は減少)	△120	△124
災害損失引当金の増減額(△は減少)	—	△118
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△10	△6
修繕引当金の増減額(△は減少)	38	101
役員株式給付引当金の増減額(△は減少)	61	10
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△17	△5
受取利息及び受取配当金	△4	△4
支払利息	83	92
社債利息	1	6
社債発行費	104	—
投資有価証券売却損益(△は益)	△2	—
関係会社株式売却損益(△は益)	8	—
固定資産売却損益(△は益)	△8	△21
売上債権の増減額(△は増加)	237	990
たな卸資産の増減額(△は増加)	△283	△61
仕入債務の増減額(△は減少)	△331	△367
繰延資産の増減額(△は増加)	△12	23
未払金の増減額(△は減少)	△70	△497
前受金の増減額(△は減少)	354	△289
未払消費税等の増減額(△は減少)	556	549
その他	87	31
小計	3,318	3,996
利息及び配当金の受取額	4	28
利息の支払額	△91	△111
法人税等の支払額	△382	△677
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,849	3,234
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△4	△4
定期預金の払戻による収入	3	1
投資有価証券の取得による支出	△1	△1
投資有価証券の売却による収入	21	—
関係会社株式の取得による支出	—	△74
関係会社株式の売却による収入	32	—
国庫補助金による収入	1,163	379
有形固定資産の取得による支出	△2,713	△2,561
有形固定資産の売却による収入	57	27
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△5,039
その他	△88	△98
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,531	△7,371

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額 (△は減少)	180	1,600
社債の発行による収入	4,645	—
社債の償還による支出	△35	△298
長期借入れによる収入	4,218	3,159
長期借入金の返済による支出	△2,998	△2,716
リース債務の返済による支出	△77	△47
長期未払金の返済による支出	△16	△24
株式の発行による収入	—	3,669
非支配株主からの払込みによる収入	2	4
自己株式の売却による収入	—	454
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△233	△234
非支配株主への配当金の支払額	△25	△26
その他	△2	△2
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,656	5,540
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	—
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	6,975	1,403
現金及び現金同等物の期首残高	8,922	11,028
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	1
現金及び現金同等物の四半期末残高	15,897	12,433

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

当社は、2020年8月20日開催の取締役会において、公募による新株式発行(一般募集)及び公募による自己株式の処分(一般募集)並びに第三者割当による新株式発行(オーバーアロットメントによる売出し)を決議いたしました。2020年9月4日を払込期日とする公募による3,500,000株の新株式(普通株式)発行により、資本金及び資本剰余金が1,592百万円ずつ増加し、公募による500,000株の自己株式(普通株式)の処分を行ったことにより、資本剰余金が13百万円増加し、自己株式が441百万円減少しております。さらに、2020年9月25日を払込期日とする第三者割当による564,300株の新株式(普通株式)の発行(オーバーアロットメントによる当社株式の売出しに関連した第三者割当増資)により、資本金及び資本剰余金が256百万円ずつ増加しております。この結果、当第2四半期連結会計期間末において資本金が8,489百万円、資本剰余金が9,049百万円、自己株式が856百万円となっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用しております。